

河村名古屋市長へのインタビュー関連資料

あいちトリエンナーレのあり方検討委員会

2019年12月18日

本冊子の構成

はじめに : この資料の位置づけ

1. 資料①、②、③において河村名古屋市長が主張される諸点についての検証作業結果

2. 資料

① 河村市長定例会見での発言録(12月9日)

② 日本外国特派員協会での記者会見録(12月10日)

③ 産経新聞記事(12月13日)

はじめに：この資料の位置づけ

※広く県民に対する情報公開、事実関係と事実誤認を明確化すべく作業結果を公開する。

- ・検討委員会は河村名古屋市長に対するインタビューを10月9日に行った(参考5)。
- ・その後、同市長は定例会見(12月9日、資料①)、日本外国特派員協会での記者会見(12月10日、資料②)及び産経新聞のインタビュー記事(12月13日、資料③)で、表現の不自由展関連の発言をされている。
- ・そこで検討委員会としては、これらの議事録を同市長へのインタビューの追加資料と位置づけ、事実関係と内容についての検証を行った。
- ・その結果、委員会の中間報告(9月25日)及び12月18日の報告に記載した内容には何ら変更を加える必要がないと判断した。

河村市長のコメント	検証委員会意見	備考
<p>A1（あいちトリエンナーレについて） 「名古屋市主催ですから、愛知県もそうだけ ど。名古屋市民がこの展示を応援したとい うことになるんです。」</p>	<p>・あいちトリエンナーレの主催主体は、多くの構成員が参画する「実行委員会」という組織（任意団体）であり、名古屋市や愛知県ではない。トリエンナーレに関する事業費の執行は、同委員会の意思決定によって行われている。名古屋市は全体の約17%の資金を拠出しているが、それについては、市の予算として議決を経て拠出されている。したがって、実行委員会の予算の具体的な用途について、名古屋市民は責任を負わない。</p> <p>・なお、行政が公金を使って表現行為を援助する場合には、憲法上保障されている表現の自由、思想・良心の自由を守られなければならない。従って、法令に違反する場合を除き、特定の作品の展示を拒み、あるいは特別扱いをすべきでない。また逆に、公的施設が、その作品の展示を許可したからといって、行政機関として、その作品がかもし出すメッセージ等を支持したことはない。</p>	<p>【あいちトリエンナーレ実行委員会の構成員】 愛知県知事、名古屋市長、名古屋商工会議所会頭、一般社団法人中部経済連合会会長、名古屋商工会議所専務理事、一般社団法人中部経済連合会専務理事、中日新聞社代表取締役社長、日本放送協会名古屋放送局長、独立行政法人国際交流基金理事、愛知県立芸術大学学長、愛知芸術文化センター総長、愛知県県民文化局長、名古屋市観光文化交流局長、公益財団法人愛知県文化振興事業団理事長、建畠哲（多摩美術大学学長、2010芸術監督）、五十嵐太郎（東北大学大学院教授、2013芸術監督）、港千尋（多摩美術大学教授、2016芸術監督）、加須屋明子（京都市立芸術大学教授）、中井康之（国立国際美術館副館長）、水野みか子（名古屋市立大学教授） 藤川 哲（山口大学教授）、川北真紀子（南山大学教授）、紫牟田伸子（紫牟田伸子事務所）</p>

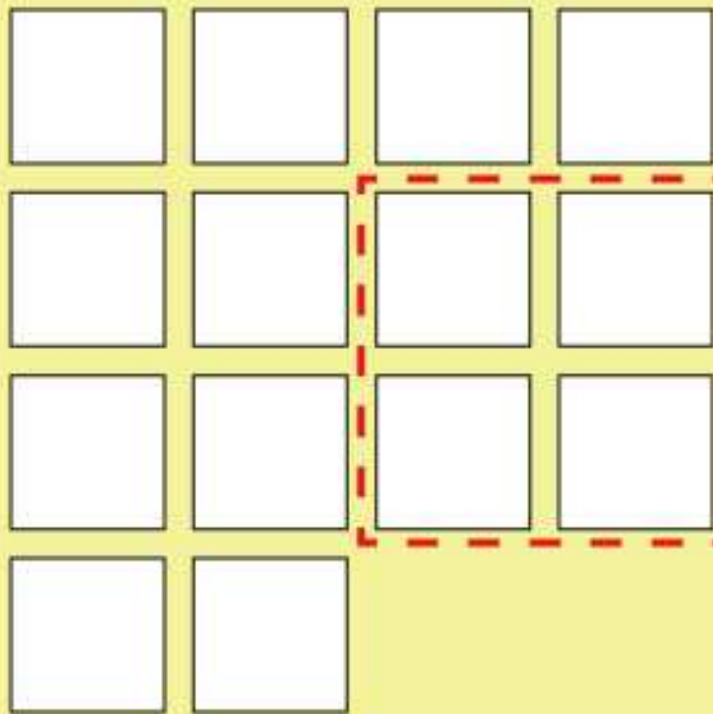
河村市長のコメント	検証委員会意見	備考
<p>A2 Government speech といいますけど、裏書き効果といいますけど、役所がこういうことを、ある芸術を主催するということは、それは、いわゆる、いいことであると。市民が応援している裏書き効果があるといわれています。</p>	<p>・河村市長の主張する「Government Speech」とは、政府が話し手として人々にメッセージ、情報を発する行為のことであるが、公権力は、他の私的主体と同様の立場から自由に発言を行ったとしても、その背後に強大な権限を持っており、事実上、その内容に公的な正統性の裏書を与えてしまう危険性を有している。従って特段の注意をすべきという意味であろう。</p> <p>・文化芸術分野の場合、特定の作品を補助したり、逆に排除したりするとまさにこの裏書効果によって検閲につながる可能性がある。しかし、展覧会に資金を出したり会場提供しても裏書効果は生じない。むしろ市長の今回の「トリエンナーレに公金を支払うと裏書効果がある」旨の発言がまさに特定の作品を排除する、Government speechとなりかねず、検閲的な行動と受け取られかねない。</p>	

河村市長のコメント	検証委員会意見	備考
<p>B1 「自分のカネでどこかでやっていれば、あーだ、こーだと言わない。でも公共事業だ。名古屋市、愛知県主催というのがでかい。陛下に敬意を持つ人がほとんどです、日本人は。公金を置く場合、一定の審査義務みたいなのがある。そうでなければ無政府になってしまう。公共事業は納税者の税金が使われる。誰かが審査しないといかんでしょ」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主催は市と県ではない。「あいちトリエンナーレ実行委員会」である。 ・「あいちトリエンナーレ」の2019年度の事業費執行については、2019年3月27日に開催された実行委員会運営会議で承認された事業計画及び予算に基づき、実行委員会の財務規程等に基づく正当な事務手続きを経て行われたものである。 ・また、愛知県及び名古屋市が、トリエンナーレ実行委員会へ負担金を支出することは、2019年度当初予算として、それぞれの議会で承認されている。 ・公金を執行する場合には、包括的な基準を定め、個々の事例をそれに照らして合理的に審査することが、どの自治体においても一般的であり、これは今回のトリエンナーレについても同様である。ちなみに文化庁の補助金交付においても、トリエンナーレの全体コンセプトや展示方針が審査された上で採択される。また、今回のその後の不交付決定についても、個々の作品の内容の可否により不交付決定を受けたわけではない。 河村市長が主張されるような審査手順は文化事業の実態にあわず、また後に行うとすれば、個別作品の検閲になってしまう。 	<p>2019年3月27日に開催されたトリエンナーレ実行委員会運営会議の結果（参考1）</p>

河村市長のコメント	検証委員会意見	備考
<p>B2 公務員は憲法第15条2項の全体の奉仕者であり、皆が納得することをやらなければならない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会は行政機関でなく、また、芸術監督やキュレーターは公務員ではない。それはさておいたとしても、憲法第15条2項が規定しているのは公務員の中立性である。 ・そもそも芸術文化の場合、県民、市民等の考え方は多種多様であり、全員が納得する内容のものだけを展示するという想定はありえない。仮に作品の内容に踏み込んで公務員が特定の作品を不許可にする場合には、特定のメッセージ等を否定することになり、かえって公務員の中立性が損なわれることとなる。 	

河村市長のコメント	検証委員会意見	備考
<p>C (大浦氏の映像作品について) 「でも出展一覧が違っとった。だまされたわけだ。陛下の(作品)はリストに「Part I」とあり、写真があった。ところが展示されたのは動画の「Part II」だったんだよ。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知県トリエンナーレ推進室担当者(=トリエンナーレ実行委員会事務局担当者)から、名古屋市文化振興室担当者に「表現の不自由展・その後」の展示内容を説明した7月22日の時点で、実行委員会事務局も会長(知事)も、大浦氏の新作映像作品の存在は把握していなかった。 ・(大浦氏の映像作品は)7月末に会場の機材に設置され、内覧会で公開された。しかし、実行委員会の事務局も会長もこの時点まで、この作品の存在を全く知らされていなかった。(報告書P69参照) ・「遠近を抱えてパートI」は存在しない。出品された作品は「遠近を抱えて」(版画コラージュ)と「遠近を抱えてPart II」(新作映像)である。「遠近を抱えて」は、版画シリーズの14点からなる作品であり、今回の「あいちトリエンナーレ2019」では、そのうちの4点と映像作品である「遠近を抱えてpart II」が出展された。従って、「遠近を抱えて」をパートIにとらえた場合、「パートI」は出展されていたと言える。 ・なお、「遠近を抱えて」は4月11日時点の出品候補リストに記載されており、事務局は、大浦氏の版画シリーズの出展については、認識していた。しかし、新作の映像作品である「遠近を抱えてpart II」については、前述のとおり、7月30日まで事務局は、その存在を知らなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・7月22日に愛知県トリエンナーレ推進室担当者が、名古屋市文化振興室担当者に説明した資料(参考3) ・今回のトリエンナーレでは、版画シリーズ14点のうち、4点が時期によって2点ずつ分けて展示された。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 8月1日～3日 2点 10月8日～14日 別の2点 </div>

遠近を抱えて（版画・14 作品）



遠近を抱えて part2

（映像・新作）



「あいちトリエンナーレ 2019」

版画 4 作品・映像 1 作品出展

河村市長のコメント	検証委員会意見	備考
<p>D1（平和の少女像について） 「展示内容を知ったのは7月31日の前夜祭。隣にいた市議が『慰安婦像が展示される』ようなことを言ったもんで、『そんなバカな』と驚いたわけです。」</p> <p>「慰安婦像があるから、問題になるので隠して出そうと言ってるわけです。だからだぶん本当のことをいったら認められないだろうと。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・少女像についての初めての情報は、3月27日のプレスリリース資料にある慰安婦問題という記載である。その後、具体的な出品リストがでてきたのは4月11日で、そこには《〈平和の少女像〉ミニチュア》《ソウル駐韓日本大使館前、釜山日本領事館裏〈平和の少女像〉》という記載があった。 ・実物が展示されるという事は会長（知事）には6月12日に初めて報告された。その後会長（知事）からパネルにできないか等の示唆があったが最終的に7月19日に展示形態が決まった、（報告書P29、30参照） ・名古屋市役所の職員は7月22日の時点で少女像が出品されることを確実に知っていた。市役所内で市長に対する報告がなされなかったと思われる。 （※詳細は後述） 	<ul style="list-style-type: none"> ・3月27日に配布したプレスリリース資料（参考2） ・7月22日に愛知県トリエンナーレ推進室担当者が、名古屋市文化振興室担当者に説明した資料（参考3） ・8月5日に名古屋市長の定例会見において、職員が少女像の出展について市長に報告をあげなかった、反省していると発言。

河村市長のコメント	検証委員会意見	備考
<p>D2 「7月22日の時点で、陛下のことは彼は知らなかったと言ってる。陛下の燃えるやつ。バーナーでね。だけど慰安婦像と、慰安婦像だけに絞って言おうか。慰安婦像については知ったはずです。彼が担当者ですけど、名古屋市の。彼が見て、彼かその部下か忘れましたが、これはええのかといって県に聞いたら、県は大村知事がいいと言っていると、それを展示しても、と言ったと、そうでしょう。うなずいてます」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「県は大村知事がいいと言っていると、それを展示しても、と言ったと」という事実はない。明確に事実にする。 ・会長としては、これまで3回のトリエンナーレと同様に、企画展示の内容については極力専門家である芸術監督に委ねるべきと考えていた。さらに、知事としても、金は出すが口は出すべきでないと考え、また、憲法上の「検閲」にあたると言われかねないと考えていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会長として、少女像の実物展示があることについては、安全上の危惧をし、芸術監督に対し、「少女像は何かならないか、やめてくれないか」、「少女像は、実物ではなくパネルにならないか」、「写真撮影は禁止にできないのか」といった懸念を伝えた。(6月20日) ・しかし、不自由展実行委員会側には、少女像の展示はするという強い意向があったので、芸術監督は、写真撮影禁止、又は入口付近からの写真撮影のみ許可し、SNSへの掲載禁止で対処する意向を事務局経由で会長へ伝えた。(7月8日) ・会長は、事務局を通じて、芸術監督に対し、再度少女像展示はやめてもらえるよう考え直してくれないかと伝えるとともに、写真撮影禁止とSNS写真投稿禁止を、芸術監督と不自由展実行委員会の連名で掲示するよう協議を指示した。(7月11日) ・これに対し、不自由展実行委員会は、写真撮影は禁止できないが、SNS写真投稿禁止については、あいちトリエンナーレ実行委員会、芸術監督、不自由展実行委員会の3者連名で掲示することを了承した。(7月19日)

河村市長のコメント	検証委員会意見	備考
<p>D2 「7月22日に県から作者と題名、内容と写真が提示され、慰安婦像と『間抜けなー』は写真で載っていた。市当局は『まずいのではないか』と言ったが、24日に県は『大村秀章知事がいい』と言っていると。こっちも誤った。(市が)オレに言わなかったんですよ、そのことを」</p> <p>「7月22日の時点で、陛下のことは彼は知らなかったと言ってる。陛下の燃えるやつ。バーナーでね。だけど慰安婦像と、慰安婦像だけに絞って言おうか。慰安婦像については知っと思ったはずですよ。彼が担当者ですけど、名古屋市の。彼が見て、彼かその部下か忘れちゃったけど、これはええのかと聞いて県に聞いたら、県は大村知事がいいと言っていると、それを展示しても、と言ったと、そうでしょう。うなずいてます」</p>	<p>・市担当者が「まずいのではないか」と言ったこともなければ、県担当者が「知事はいいと言っている。」との発言もなく、そうしたやりとりはなかったことを、県と市の担当者で確認している。該当の表現は事実ではない。 (県と市のやりとり) 7月22日(月) 名古屋市文化振興室に説明。名古屋市担当者から、「知事まで話が上がっているか、知事の見解はどうか」との質問があり、県担当者は、「知事には報告済み。知事はトリエンナーレの展示内容については、『金は出すけど口は出さない』という方針」と回答。</p> <p>※この時に、(市担当者が「これいいんですか」と聞いたこともなければ、)県担当者から「知事がいいと言っている」との発言もなく、そうしたやりとりがなかったことが県職員と名古屋市担当者との面談で確認できている。</p> <p>その後、市担当者からの依頼に基づき、県担当者から事務局の想定問答をメールで送付。</p> <p>7月23日(火) 名古屋市担当者は、22日の県担当者とのやり取り及び送付された想定問答を文化歴史まちづくり部長、文化振興室長に報告。その際、「市長や議員に説明する際、知事の見解を聞かれる可能性が高いため、対外的に言えるものが必要」という話になり、県担当者にメールにて、県や知事の見解をまとめたものを提供してほしい旨依頼。</p> <p>7月24日(水) 市担当者が前日のメールの回答を電話で確認したところ、県担当者が「改めて出すことはできない」と回答したため、市担当者が「事務局の想定問答の該当箇所を、県や知事の見解として良いか」と確認。県担当者が了承。</p>	<p>7月22日に愛知県トリエンナーレ推進室担当者が、名古屋市文化振興室担当者に説明した資料(参考3参照)</p>

7月22日に愛知県から名古屋市へ提供した想定問答

Q3 「表現の不自由展・その後」の展示内容について、事務局はどう考えているのか。

○今回の展示については、津田監督からは、「個々の作品の主張や意見を肯定・否定するのではなく、過去に何らかの理由で展示不可となった作品を集め、表現の自由に関する問題提起をし、皆さんに議論していただくことが目的」と聞いている。

(○展示内容については、直接、津田監督に聞いていただきたい。)

Q4 このような展示に対して、公費が使われていることについて、どう考えるのか。

○「あいちトリエンナーレ」については、これまで、選任された芸術監督の総指揮の下で、展示作品を始めとする芸術祭の中身を決定してきた。

○実行委員会事務局は、芸術監督が決定した内容を尊重して、円滑に運営できるように取り組んできた。

○今回のトリエンナーレも同じ形であり、事務局としては、芸術監督の指揮の下で、円滑な運営に向けて必要な対策をとるように心掛けており、今後もそうしていきたい。

河村市長のコメント	検証委員会意見	備考
<p>E</p> <p>「これは大村知事が完全に独断、これ、独裁でやったことなんであって、こちら側がいくら話し合おうとも一切話に乗ってこなかった、彼は。」</p> <p>「権力行使したのは大村氏。会長が会長代行に相談せにや、いかんですよ。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「あいちトリエンナーレ2019」の事業計画は、名古屋市副市長が出席した3月27日のあいちトリエンナーレ実行委員会運営会議で承認を受けており、知事が独断で行ったものではない。 ・「表現の不自由展・その後」が今回のトリエンナーレに参加することは、2019年3月27日に開催されたトリエンナーレ実行委員会運営会議で配布されたプレスリリース資料に掲載されている。それに対し、名古屋市から抗議や質問はなかった。 ・河村市長はトリエンナーレ実行委員会の会長代行であり、主催者側の一員である。もしも、展示内容に対する疑義が生じたならば、いきなりマスコミを通じて問題提起をする前に、会長に申し入れ、協議すべきであった。 ・なお、河村市長らの発言による直接的影響はなかったが、TVメディア等を通じた同氏らの対外的発言によって、電凸等が激化した可能性がある。(調査報告書P96参照) ・政治家の発言は、純粋な個人的発言とはみなせない。内容によっては圧力となりえ、(広い意味での)「検閲」とも言うるので、慎重であるべき。また、報道等で広く拡散されることで度を越した抗議を助長する点でも慎重であるべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3月27日の実行委員会運営会議で配布したプレスリリース資料(参考1参照) ・8月2日の河村市長からの抗議文(参考4参照)

河村市長のコメント	検証委員会意見	備考
	<p>(Eの続き)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特にトリエンナーレの運営に権限や影響力のある政治家の発言は、行政(を担う者)によるものであること、表現の内容を理由とするもの、事実上強い圧力となる効果をもつこと、からして、最高裁の言う狭義の検閲の定義に当たらないにしても一定程度の近似性があり、表現の自由の観点から問題がある。 <p>(別冊資料2 P15「⑥政治家の批判」参照)</p>	<p>(知事ヒアリング)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 河村市長から話し合おうという声かけはなかった。 ・ マスコミ等へのアピールはあった。 ・ 唯一、10月8日の再開直前の7日に「芸術監督にだまされた。再開はしないで、手を握ろう。」というものがあつた。それは、芸術祭を円満に終わらせようという当方の立場からは受け入れられないものだった。

河村市長のコメント	検証委員会意見	備考
<p>F（中垣氏の作品について）</p> <p>「中垣氏は、いわゆる「idiot JAPONICA」という、円形の墓を作った人です。そのGraveの上に日章旗がありまして、そこにサインがある。それは、特攻隊のサインであると従軍兵士のサインであるとか、いろんな議論があるようだけれど、彼らが、死んだ日本軍兵士を、「stupid JAPONICA」といった作品を作った人である。」</p> <p>「それとドーム状の『間抜けな日本人の墓』（＝時代の肖像－絶滅危惧種 idiot JAPONICA 円墳－）。太平洋戦争で死んだ日本人の寄せ書きですわ」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・正式名は『時代の肖像 絶滅危惧種 idiot JAPONICA 円墳』である。「stupid JAPONICA」、「間抜けな日本人の墓」という名前の作品ではない。 ・また、中垣氏は、作品のサインについて、「特攻隊でもなんでもない。親族が、海軍兵学校の途中で終戦を迎え、友だち同士で寄せ書きしたようなもの。自分は、特攻隊を揶揄したりは一切しない。と同時に、美化もしない。」と述べている。（中垣克久氏インタビューより） ・「私の作品は平和と生命を尊ぶ真の心を表現したものである。」（月刊『創』2019年10月号）よりと述べている。 	<p>「私は子供の頃より与謝野晶子の「君死にたもうことなかれ」を暗記させられ、正しい、美しい心が育つように育てられた。自分の中の真をすなわち「知」を力一杯表現したものが私の『時代の肖像 絶滅危惧種 idiot JAPONICA 円墳』である。（報告書P57参照）</p>

河村市長のコメント	検証委員会意見	備考
<p>G 「河村たかしは …… 、ナチスだと言ったじゃないですか。ナチスだと。これでは、どちらが独裁だと言いたいですよ、本当に。ナチスについては、携帯に電話がかかっておりまして、留守電が。そんなつもりで言ったんじゃないとかなんとかって言ってましたけど」</p>	<p>(9月17日の定例記者会見)</p> <p>・大村知事は、「私はトリエンナーレの意義について、誰もが、芸術、芸術の価値に対する評価は百人百様だと。誰もが芸術的価値を認めるものだけの展示を認めるのであればですね、こうした展示、展示会、展示展はね成立しない。ですから、かつてナチスがですね退廃芸術と称してですよ、前衛芸術とか現代アートを否定した歴史があるわけですよ。ドイツは、それを、その反省に立って、いろんなもの、ことを、そういうのはいけないということをやっているんですね。誰もが認めるものでなきゃやっちゃいけないということは、まさにそのナチスそのものなんですよ。だから、それはいかんという。だから、そんなことではないんだということと、愛知県や私が芸術的な価値について当否を判断して、展示内容を決定したものではありませんということを明快に出させていただいているんです。」と発言。ここでは河村市長を「ナチス」とは言っていない。</p> <p>(知事インタビュー)</p> <p>なお、河村氏への携帯に電話したのは、「ナチスとは言っていない」ということも伝えたものとのことである。</p> <p>・本来、そうした記事を見つけた場合、河村市長から大村知事に連絡するべきと考えられるが、大村知事から河村市長に対して事実関係を伝えるために電話を入れたとのこと。</p>	

12月9日 河村市長定例会見での発言録（その①）

（市長発言内容）

あいちトリエンナーレあり方・負担金検証委員会の開催についてお知らせいたします。本日、あいちトリエンナーレ名古屋市あり方・負担金検証委員会を設置いたしました。本検証委員会において、本市とあいちトリエンナーレ2019の費用負担等を含む関与のあり方と、今後の公共事業としての芸術祭のあり方について方向性を示していただきます。

第1回会議は12月19日(木)午後3時より、これ申し訳ないですが立派な方がぎょうさんお見えになりますので、東京でのということになります。東京都千代田区の都市センターホテルでの開催となります。会議の様子はYouTubeでライブ配信し公開で行います。

今後のスケジュールは年度内に今回を含め計3回の会議を開催し、検証結果を報告していただく予定です。

また、明日10日(火)日本外国特派員協会いわゆる外国人記者クラブにおいて記者会見を行い、外国人記者に向け、今回の件について、私が行って説明してまいります。午後2時からです。是非、来てちょうだい。

しっかり説明しないと。公共事業であること、陛下のああいうとんでもない、バーナーで燃やして踏んづける展示が実は隠されておったということがわかっていないと、なんか表現の自由だと誤解している方が大変多くおみえになるし、あと日本のマスコミは事実を書かないと、はっきり外国人の記者に言ってまいります。

ということでございますので、ぜひお越しください。

メンバーについては資料に掲載してありますので、御覧ください。資料の一番後ろに記載してあります。あいちトリエンナーレ名古屋市あり方・負担金検証委員会委員名簿ということで五十音順でございます。まず、浅野善治さん、大東文化大学副学長で、元衆議院調査局決算行政監視室主席調査員、名古屋市の法制アドバイザーをお願いしております。田中秀臣さん、上武大学情報大学ビジネス情報学部教授。田中由紀子さん、日本財団ダイバーシティエンジニアーズ、プログラムディレクター、それから中込秀樹さん、弁護士で元名古屋高等裁判所長官、それから、座長ですが、山本庸幸さん、元内閣法制局長官で、前の最高裁判所判事、以上でございます。大変立派な方が集まってくださって、内容のあるしっかりした議論をしていただけると期待しています、以上でございます。

～質疑応答～

（記者）

あいちトリエンナーレの検証委員会の開催地が東京になっているが、どうして東京なんですか。

（市長）

なかなか東京に本拠のある方もおみえになりますし、先生方のご都合に合わせないといけませんね。名古屋に縁のある方が多い。座長さんは旭丘高校の出身です。1つ僕より下ですけど。

12月9日 河村市長定例会見での発言録（その②）

（記者）

東京で開催するという事は、注目を集めるという意味ではなく、委員の方のご都合でということでしょうか。

（市長）

はいそうです。

（記者）

検証委員会についてですが、改めてですが、どういう手順でどういうことを検証するのか、をお教えいただけますか。

（市長）

始めは僕が行って冒頭ご挨拶させていただきますが、まず、公共事業における、今回が公共事業でしたから、公共事業における美術展のあり方を議論していただく。

それから、名古屋市で払っていないお金、3,400万、（市の職員が3,300万円と訂正）払った金で1億4千万のお金をどうするかというのは市民の皆さんのお金であり、県のお金の6億のなかにも名古屋市民が払っているお金がものすごくある。名古屋市民も県民税を払っていますので、そういうお金をどうするかということ。私からすれば、4点あります。何度も言いますが、

1つは、陛下の肖像をバーナーで燃やして足で踏んづけるという動画が展示されていたこと。2つめは、それが隠されていたこと。今日、そもそも見せてもよいと思いますが、この間櫻井よしこさんの番組

に出た時に、一覧表を見せましたけれども、8月1日オープンの展示で、7月22日に名古屋市に一覧表で提示されているわけです。提示13項目ですかね、不自由展に関するものは。その中に、問題になった慰安婦像はそのまま写真も本物が出ている。Idiot japonica まぬけな日本人の写真も内容もそのまま出ている。しかし陛下のは『遠近を抱えて』のパート1が（一覧には）出ている。その他の欄については空欄になっている。その他は、ないという展示、リストになっている。で、例の動画で、肖像画をバーナーで燃やして足で踏んづけるというのが、あれ（リスト）どおりでいけばいいわけです。展示されてはいかんものなんです。まあ、皆さんに配ったらどうですか、口で言ってもあれですし。名古屋市が愛知県からもらった正式な書類ですから、7月22日についても。

それと、あとの2点についても、名古屋市の担当から聞きますと、「これいいんですか」と、言葉のてにをはは知りませんが、その慰安婦像と間抜けな日本人の事について確認したら、大村知事がこれでもいいと言っとると、当然大村知事がいいと言っているということでそのままになった。ほんとはそのとき僕に報告しておかないといけなかったんだけど。要するに大村知事の独断なんです、すべて。完全な独断です。こっちが何べんも実行委員会やってと言っても一切開かれず。なんか新聞記事に書いてありましたが、逃げ隠れと書いてありましたが、何にも相談もなし。独断でほぼ10億円を近い、公的なものをです、やられたということです。

C

D2

E

C

12月9日 河村市長定例会見での発言録（その③）

（市長発言続き）

名古屋市長が委員長代行としてですと、いったん公的な判断があったのによ、大本営の発表があったことなんですよ。私が発表したわけではないんです。発表があったときにそれはちょっとまずいんじゃないかと、議論しようじゃないかと。これ、中日新聞に言いたいんですけど、本当に、社会の自由に対する脅迫ですか、これ。もし脅迫だというなら知事の方が脅迫じゃないですか、こういうことはやめてほしいというおびたしい数の人がいるでしょう。天皇のことは知らなんだということになるかもしれないが。

B2 だいたい、100%は無理ですが、公務員は憲法15条2項の全体の奉仕者ということになっていますからみんなが納得できることをやらないといけないわけです。

税金で応援しても良いですよ。税金でやるのが全部悪いとは言っていない。税金で、芸術を、助成ですね。名古屋市だってやっとかめ文化祭とか、市の美術館でやっているカラヴァッジョとかやっています。一定の芸術の支援はやっていますよ。それはちゃんと議会を通して、当然のことだから、カラヴァッジョがどういう展示かということが事前に説明がありまして、議会も皆さんも理解してやっている。そんな中、隠して出すなんて、そんなものをマスコミが報道しないなんてとんでもない。今回のことで分かりましたが、やっぱり日本人は事実をマスコミが報道するのが弱いつて。

（記者）

先ほど4点ということだったが、もう2点はどれですか。

（市長）

もう2点を言うと、陛下の写真を燃やしているやつがあったということ、足で踏むやつ。そして、それを隠していたこと。少なくとも7月22日のリストに入っていないということ。入っていないどころか、ない、空欄になっています。さらに、これが公共事業であること。私的な展覧会ではないんです。今まで私は、ただの一回も、表現者、芸術家の皆さんに対してこういうことをやるなといったことは一度もない。聞いてくれればよいのですが、一回もありません。主催で、公共事業でやる場合は一定の審査権があるんです。

それだったらマスコミ書いてくださいよ、審査なんかするな。これ、堂々とかけば良いではないですか。良いですよ、テレビで審査するなって言ってもらっても。芸術だと言って。それだったら、市役所の職員みんな辞めないといけませんよ。

（記者）

市長、もう1点はなんですか。

（市長）

もう1点は、マスコミです。マスコミが事実を報道しない点です。全員とは申しませんが、慰安婦像ばかりで、たまたまNHKもおりますが、慰安婦像だけです。残りの今の3点について報道しないこと。だからリアリズムに密着してもらわないといかんということです。

（記者）

それをこの検証委員会で検証するのか。

B1

12月9日 河村市長定例会見での発言録（その④）

（市長）

私はそのように考えていますけれどもね、あり方と抽象的に言っていますけど。

（記者）

手続きの進め方についてお伺いしたいのですが、今年度3回やって、それが諮問なのか、それを受けて市長がどのように判断するのかなど、詳細な手続きについてお教えいただきたい。

（市長）

3回やって、諮問いただいて。それは重要なお意見でございます。最終的には市が決めます。

（記者）

従前、市長は委員の構成について、市長が地元の有識者ということだったが、山本さんは地元のご出身ということではありましたが、地元を拠点にしている有識者はいるのか。

（市長）

女の方（田中さん）が、半田、阿久比の出身の方で過去のあいちトリエンナーレを3回ともコーディネーターのような仕事をやってみえた美術評論家ですね。委員一覧のうちの日本財団の女性です。

浅野さんは名古屋市の法制アドバイザーをやってみえる。衆議院の法制局で活躍された方です。

（記者）

この方は、市長も衆議院議員時代から知ってみえる方か。

（市長）

衆議院議員時代からよく知っております。内閣の法制局の長官だったかたもいらっしゃいますが、衆議院調査局は、自分で一から作らなければいけないので、ものすごくよく知っていますよ。内閣法制局は各省庁からあげてきたのをチェックするところですので。非常にお詳しい方です。

相当、最高なメンバーです。某県の親分に言わせると名古屋市になんかできやせんわいと言っとったらしいけど冗談じゃないよ、ということですよ。

（記者）

検証を受けて市が判断するのは未払いの3,300万だけではないのか。

（市長）

今年度支払ったも分です。1億4千万円も。

12月9日 河村市長定例会見での発言録（その⑤）

（記者）

今後のトリエンナーレへの関わりについても議論されるのか。

（市長）

ま、関わりのあり方も議論していただく。

（記者）

1億4千万の部分ですが、支払が不適切という意見が出た場合に、例えば返還を求めるといふこともあり得るのか

（市長）

それは重要な参考にさせていただかないといけませんからね。ありえないと言っていたら、意見聞くことの意味がないですから。いろんな選択肢の中で重要なアドバイスをいただいたということになる。

（記者）

4点という話だったが、4点のいずれも、先方の回答を求めるといふ事でいいのか

（市長）

僕は（検証委員会の）冒頭で言いますけれどね。そのような問題点はこういうことだと。よう誤解されていますので。まあ知りませんがね。いかんですわ。あんまりジャーナリズムに文句を言っていかんけれども。まあいいですよ、自由にやってもらえば。

（記者）

市長がそういう提言をされて、実際に会議を運営していくのは事務方だと思うが、4点の回答を最終的に求めるということではよろしいですか。

（市長）

まあ、私はお願いします。4点について。

（記者）

県の関係者は出席しないということだが、事実関係を検証する時に、お互いの言い分があると思うが、名古屋としてはこういう通知しか受け取りませんでしたと言うことに対して、県側の言い分はどう反映するのか。

（市長）

どっかで県のヒヤリングをするわけでしょ。

12月9日 河村市長定例会見での発言録（その⑥）

（記者）

県の方で実行委員長を民間からという話がありましたけれども、それはこの検証委員会の議論とは別個ですか。

（市長）

別個です。それは勝手にやってもらってですね。何を考えておるのかっていう話です。

名古屋市民も県民税払ってますから。そのやり方について独断で誰に相談もせずに、ぐちゃぐちゃじゃないですか。

（記者）

この検証委員会の取材ですが、在京メディア及びフリーランス、雑誌社も全部入っても良いんですか。

（市長）

それはOKだと思いますよ。

12月10日 日本外国特派員協会での記者会見録（その①）

じゃあ日本語でいきますけど。なるべくポイントを絞ってくれというふうに言われましたので、だから問題をまず絞りまして、4点に絞ります。まず1つは、今回のあいちトリエンナーレ問題というのは、これはいわゆる公共事業だったんです。私はいまだかつて、作家、アーティストに、こういう表現をしてはいかんとやったことは、一遍もありません。どこかの画廊、ギャラリーとか、それから自分のうちでとか、そういうところで、河村が自分のお金でということで、こういう表現はいけないということは一遍もありません。

今回は、どうも僕が調べたところで、アメリカ、イギリスではあまりないようですけど、今回は名古屋市、それから愛知県主催、Organized by the prefecture and city of Nagoya. You know? 税金を芸術に一切使っていないということはないです。それはやっぱり助成して、芸術を育てるという場合があるからね。そういう場合は、しかし議会があったり、それからマスコミがあったりして、ちゃんとステップがあって、そこで民主主義的なステップを取ってやることなわけ。

要するに、この場合、まず1つはやったことを認めますと、名古屋市主催ですから、愛知県もそうだけど。名古屋市民がこの展示を応援したということになるんです。ということは、これ、Government speechといいますけど、裏書き効果といいますけど、役所がこういうことを、ある芸術を主催するということは、それはいわゆる、いいことであると。市民が応援しているという裏書き効果があるといわれています。ですから、やはりきちっと慎重にというか、当たり前ですけど、役人側はやらないかん。憲法15条2項というんですけど、そこに、いわゆる公務員は全体の奉仕者だという規定がある。だから慎

重にやって、だから私たちというのは一定の審査をする義務があるんです。Dutyです。Not rightです。Our duty to check it. 分かります？ You get it? ということで、まずそれがワンポイント。

それからセカンドポイントは、Statue of the sex slaves, no good, comfort ladyもImportantですけど、だけど、陛下の、昭和天皇ですけど、昭和天皇の肖像画ですね。肖像写真が、これちゃんと言ってくれないと。バーナーで燃やしているんですよ。バーナーで燃やして、あと灰になったのを足で踏みつぶすという動画があったと。Not only picture but moving, moving picture it was. ビデオ、そうです。それで、それが2つ目。

それからサードポイントは、これが実は隠されていたと、展示のときに、これ、どうしましょう。隠されていた証拠の書類を、今、説明しましょうか。

はい、ちょっとそれ。いやいや、まず。3ページあるでしょう。これはどういう書類かといいますと、8月1日にあいちトリエンナーレがオープンしました。1週間ほど前の、愛知県が名古屋市に示した書類です。どういうものが展示されるかという。一番向こうにおるのが名古屋市の担当で、彼が名古屋市の担当で。そこに県が示したやつ。いいですか、それでちょっと、これは日本語ですいません。I'm sorry this is Japanese, sorry, but this is the accurate one, original one, OK? You get it? これで、まず第1ページの問題が、一番大きいのは、ナンバー10。これ、見立て帖で、ファーストページのナンバー10。これ、ずっと右へいきますと、二重丸があるところ、ありますね。

12月10日 日本外国特派員協会での記者会見録（その②）

ここは、どういうことかいうと、一番上までいきますと、これ、2015年展示と。これ、2015年には展示したもの。それで、問題はProblem is hereなんですよ。問題は、次の欄は今回追加展示の欄なんです。前回のには、陛下の、それ、じゃあ次いきましょう。その次のページ見て。写真がありますから。ナンバー10、右側の10。ナンバー10。

10のところのずっと右へ行くと写真があるでしょう。ここが昭和天皇。これは、バーナーで燃やす写真じゃないんですよ。パターンが2つありまして、この10番の作品には『遠近を抱えて』ってあるでしょう、これ。[部分1と部分2があって。部分1のやつが出してたんです。だけど実際今回トリエンナーレで出されてるのは部分2を出したんです。]部分2にはIncludes、陛下の、バーナーで焼くというのを強調してよ。バーナーで焼いて、あと足で踏んづけるのが出されていた。バーナーで焼くという意味は、単なる火で燃えたんじゃないで暴力を意味している。ということでございまして、実はうその展示に基づいて行われた。うその申し込みですね。皆さんに聞きたいんですけど、うその表現にはFreedom of Expressionってあるんですか。これが3つ目。

4つ目のポイントは、今日マスコミがたくさん来とるけど、たぶん皆さん、外国人の記者クラブの皆さんも、たぶんこのComfort ladyのね、Statue。慰安婦像の報道しか知らなかったと思いますよ。ほとんどのマスコミがこのComfort ladyだけやって、Comfort ladyは、私はあれはうそだと言っておりますけど、だけどそうでないという意見もあるでしょう、一応これは。それはそれ。

だけど問題は、陛下の、やっぱり肖像画をバーナーで燃やして、

あとで足で踏んづけるということは、これはハラスメントであって、これは。ハラスメントであって、たぶん皆さんの中には、いや、ロンドンの美術館では、私も見ましたが、なんか美術館では、エリザベス女王の顔にマスクングした画像を保存しているというの調べました。見ましたが、悪いけど、バーナーで燃やして足で踏んづけるというのとは、僕は全然質的に違うと思いますよ、それは。それがまたうそを言って展示されることってあるんですかと。

そのことをマスコミがやらないもん。日本のマスコミは。やっぱり、事実をちゃんと、リアリズムにちゃんとマスコミが立ってもらわないかん

それでこれがうそを言ったということの理由を、2つ3つ言いますと、今日おみえになっておるからそこに津田さんがおるけど、あとはちょっと分かりませんが、中垣さんという方がみえます。この方は非常にフレンドリーな方で、たまに僕と電話して、一杯一緒に飲もうかなって言ってますけど、彼はいわゆる「idiot JAPONICA」という、こういう円形の墓を作った人です。そのGraveの上に日章旗がありまして、そこに、これなんですけど。フォトがね。そこにサインがある。それは特攻隊のサインであるか、従軍兵士のサインであるか、いろんな議論があるようですが、彼らが死んだ日本軍兵士を、「stupid JAPONICA」といった作品を作った人です。

彼はAbemaテレビの中でしゃべって、それは原稿になって起こされています。私たちは、いわゆる実行委員会って2つあるんですけど、小さいほうの、不自由展の実行委員会から出品してくれと頼まれたと。この作家がね。

12月10日 日本外国特派員協会での記者会見録（その③）

彼の展示の内容はちょっと思想が僕と違いますけど、彼は非常に筋の通った人ですね。彼がどう答えたかいったら、名前も展示品もちゃんと出してやろうと言った。僕は。だけど実行委員会は、彼が言っとる言葉ですよ、Abemaテレビで。実行委員会は、慰安婦像が出てから問題になると。だから隠してやろうと言われた。中垣さんは、そんなことはいかんと、僕も芸術家だと、そんなことやったことないと。それで、その津田さんみえるけど、本人に聞いたらいいいけども、津田さんに電話をしたと。そしたら津田さんは、必ずあとで出すと言ったと。Later、と言ったということで、こんなふうになってしまったということ、彼がそうやって答えている。

大村知事が完全に独断、独裁でやったこと

僕も非常にフレンドリーな人だから、電話で話しとるんです、たまに。一緒に酒飲もうか、ぐらいまで言っとる。そのときにこうやって言われたんで、あの話は本当でしょう、言ったら、本当です、そうですって答えました、彼は。証拠はないけど、録音はしてないけど。

それからもう1つ有名なところでは、津田さんが、4月のニコニコ生放送で津田さんと、ヒガシさんだったかな、東さんだったかな、のカンバセーションが、これはニコニコ生放送で撮って、東さんがやっぱり天皇が燃えたりするんですかと。それでその前ですけど、やっぱりこれが一番やばい企画になるんですよと、おそらく政治的にはと、そうやって津田さんは話をしています。順番がちょっと逆でした。それから東さんが、やっぱり天皇が燃えたりするんですかと。それで津田さんは、ああっと言って笑いと。これは動画で見れますから。

そういうことなのであって、申し訳ないですけど、Freedom of

Expressionは、アーティストもリスペクトさせていただいてもいいけど、やっぱりちゃんと言ってもらわないかん、いくらなんでも、本当のことを。こういうのが一番大事なポイントだと。最後ですから、【どんどん言っていきますけども】、これは大村知事が完全に独断、これ、独裁でやったことなんであって、こちら側がいくら話し合おうとも一切話に乗らなかった、彼は。

Yes, prefectural governor. で、最後の再開したときに3時半ごろです。電話で彼と話をしました。今回はだまされたんだと、本当に、これは。私たちはチェックする、ええかどうかは別よ、これは。私はガバメントとかそんなパワーなんて大嫌いなほうです。けど、河村たかしさんは反権力のシンボルみたいな男だ。日本で減税をしておるただ1つの市ですから、名古屋は。減税、Tax cut. Tax cut is a symbol anti-government, you know? Right? ということでございまして、大村さんに電話で僕はだまされたんだからいかんいうて、今回は。だからだまされたことに表現の自由はないと思うと、僕は、これはと言った。こんなことを認めたら日本中にうそを勧めることになりますよ。表現の自由とってマスコミの、特に中日新聞、朝日新聞、NHKが絡んで天皇のことを巻き込んだらうそでもなんでもやれるのかと、これ、いかんでしょ、これ。そこはいけないと言っている。

それは大村さんの電話の言葉じゃないけど、大村さんに再開してはいけないと言ったんだけど、うーんとかいって、たぶんそのときはすでに再開を決めておったと思いますけど、再開してしまった。その夜、たまたま偶然ですけど、Accidentalですけど、愛知の美術館のところに行っただけですよ、本当にオープンするかと思って。そしたら上から津田さんが下りてきた、偶然。

12月10日 日本外国特派員協会での記者会見録（その④）

津田さんが。それで僕はそのとき津田さんに、なぜうそを言うんだと言ったんやね。とって別になんの反応もしなかったし、それで終わりました。そういうことで、名古屋市もあと3,300万ですか。支払いのお金が残るとるわけ。ペイしたのでも1億4,000万ありますけど。これは税金ですからね。Public moneyですから。今も記者会見やりましたけど、名古屋も独自に検証委員会を立ち上げます。第1回目は東京でやりますけど。東京で。座長は最高裁判所の前の裁判官をやった山本さんっていう人がやってくれます。東京でやりますので、ぜひご参加いただいて。

だから僕はとにかくタックスペイヤーがちゃんと納得することをせないかんということで、私は一連のいろいろ言っとるのは、とにかくDutyだと思っています。ということで、That's all. thank you for listening. I love you.

司会：こういうものが公共の場に見せられていることに対しては、それには反対ではないんですね。

河村：公共の場で見せられることに、何。Freedom of Expressionをサポートして、公共の場で公共主催で、それでほとんど税金で、なおかつだましてやることに反対です。

司会：この展示がどうこうであれども、こういうような暴力的な反対運動ということに対して

河村：それは、暴力的にいろんなガソリン持って駆け付けるとか、そ

れは駄目でしょう。それはテロじゃないですか。申し訳ないけど、私のところにも、ガソリン缶持って行くって、私、被害届出して、彼は逮捕されました。なぜかって、僕のところに来たかいうと、私は委員長代行であって、大村さんは委員長なので。当然同じ一味だと思うわけです、グループの。僕はだから、先ほど言ったように、8月、正確に言うと7月31日の、なんで分かったかいうと、7月31日の前の、そういうパレードの前、あそこで津田さんが出てきて、10人ぐらい舞台の上に立ってました。一応、会長代行だから。

津田さんが出てきて、20分かなんか、文化庁が来ておかしいとかいって、大演説をやりかけて、これどうなってんねんと、これはいうて。僕は津田さんとなんの面識もないから、びっくりして。そして、なんだこれはっていったら、隣に自民党、市会議長がいて、いや、実は、慰安婦像が出とんだぞとか言うもんで、びっくりしてですね、これ。本当か、それって。冗談だろう、言って。と、思ったのが初めてで、その次の日にまた、ある人から電話をもらって、それで、これ、見に行かないかんからということで、8月2日の日に見に行くとびっくりしたんです。天皇陛下の燃えとる話と、それから慰安婦像と、それから今のこれね。で、びっくりして。それが初めてだった。

最後。今回の問題は、表現の自由の問題ではありません。はるかに表現の自由の以前の問題なんであって、人間はうそをついてもいいかという問題です、これは。

12月10日 日本外国特派員協会での記者会見録（その⑤）

記者1:フリーランスのイシカワと申します。そうすると、こういうふう
に理解していいんでしょうか。今回の件で、Deceive(欺く)とか、Lieと
か、そういうものがなかったら、別に、今まで問題となったあれを含
んだ、作品を含んでいても構いませんよと、そういうことでしょうか。

河村:アンサー、いいですか。もし本当のことを言っておられたとし
ます。申し込みのときに、これが、天皇陛下の肖像画が、前のと
違ってですよ、パート2で、前のと違って、バーナーで燃やして足で
踏んづけるといふを出しますと言っておられたら、僕はちょっと
待ってくれと。それは、なぜかというところ、公共事業だからいうこと
で、大至急実行委員会をやろうと。そこで津田さんやら、それからこ
の大浦さんやらみんな来て、意見を聞いて、そこで考えようと言った
と思いますよ、僕は。

記者1:私が名古屋からの新聞リポートを読んだ限りでは、河村市
長は天皇の肖像画を燃やし踏みつけるような、こういう作品を展示
するような、このビエンナーレ展、これにタックスマネーを出すことは
できないと、こういう発言だったと思うんですが、それは違うんでしょ
うか。

河村:それはきちっと書かんといかんのだけど、公共事業ですから、
言っておきますけど。民間の画廊でやったやつじゃないんです、これ
は。民間の画廊だったら私はなんの権限もありません。だからパ
ブリックマネーの、いわゆるパブリックワークスの場合は、やっぱり
チェックする義務があるでしょう。だから会合でテーブルに上げる必
要はあるかと思えますよ。だけど本当のこと、Deceivedだから、それ
できなかったわけですよ。だから単純にそういう問題じゃないんです

よ、やっぱりこれは。

要するに先ほど言ったように、中垣さんの正直な言葉に入ってる
けど、これ慰安婦像があるから、問題になるので隠して出そうと言っ
てるわけです。だからたぶん本当のことを言ったら認められないだ
ろうと。そういうことだと思いますよ。だから隠したんだと思いますよ。
だからやっぱり、相当ものすごい問題だったということですよ、これ
は。政治的だし、これ。

記者2:フリーランスのオバヤシと申します。私は河村市長のご主張
は100%、個人的には賛成するんですが、大村さんという方はなぜ
あれですか。同じような考えになられないんですか。お話しされたこ
と、たくさんあると思います。

河村:いや、再開のときはちゃんと話しましたし、ほかはちょっとこれ
は一遍、僕はまず当然、代表代行ですから、ディシジョンはできない
わけです。大村さんにちゃんと話し合おうと言ったら、彼はどう言っ
たかといったら、記者会見で言ったんですけど、河村たかしは憲法
違反であり、検閲であり、ナチスだと言ったじゃないですか。ナチス
だと。これでは、どちらが独裁だと言いたいですよ、本当に。ナチス
については、携帯に電話がかかっておりまして、留守電が。そんな
つもりで言ったんじゃないとかなんとか言ってましたけど、これ
は私悪いけど、あなた記者会見でナチスだと言ったんだから、記者
会見で謝ってくださいよと言ったら、あとなんにもなしです。そういう
状況です。

D1

G

12月10日 日本外国特派員協会での記者会見録（その⑥）

何度実行委員会で、大村さんは会長で僕は会長代行ですから、そこでまず議論せないかん。何度言ったか分からない、文書では。だけど、ただの1回も開かれませんか。無視ですわ。

司会：（英語）認められたそうなんですけども、それはご覧になりましたでしょうか。

河村：それは新幹線のニュースで見ましたけど、伝聞のね。だけどこれ、ここで議論してもなんなんですけど、強制的にっていうのが、Forcedって、どういう意味なのか知りませんが、強制的の意味にはいろいろあってですね、これは。いわゆる従軍慰安婦問題というやつは、泣き叫ぶ子供を振り切って、朝日新聞によりますと、吉田清治さんという人が濟州島で振り切って200人かな、強制的に連行したという、そういう軍は強制的に女性をSexual slaveにした証拠はないと。証拠はないということを主張しておるのであって、一定の、あまりこれ言っちゃいかんけど、私のおやじも軍隊いってましたから、やっぱり慰安所というのはあったぞとは言っていました、それは。だから一定の管理をしとったことは、僕はありうると思いますよ。

通訳：すいません、ちょっと確認なんですけど、言葉の翻訳が間違っていたら大変なので。先ほどSexual slaveとおっしゃいましたが、それって日本語で言っていた方がいいと思うんですね。

河村：それは日本語でSexual slaveいうと従軍慰安婦です。

記者3：もちろんこの本はご存じだと思いますが、リチャード・クーさんの本以外にももう1つ、『反日種族主義』という。

河村：はいはい、読みました。韓国のやつ。難しい本ですけど。

記者3：でも私はその本を読みまして、韓国人の中で非常に良心を持った人がいらっしゃるということをあらためて感じたんですが。この本によれば、従軍慰安婦などの要するに反日的な話は全部捏造であるということですね。これは証拠も全部出てますけれども。

それでこの本の主張と、大村さんの意見などとういうふうにかみ合っていくんでしょうか。

河村：大村さんのことはちょっとよく分かりませんが、昔は仲良かったんですけど、Past tenseです。Now it is past tense we are very friendly with 大村さん。だけど、1つ言えることは、7月22日の時点で、陛下のことは彼は知らなかったと言ってる。陛下の燃えるやつ。バーナーでね。だけど慰安婦像と、慰安婦像だけに絞って言おうか。

慰安婦像については知ったはずですよ。彼が担当者ですけど、名古屋市の。彼が見て、彼かその部下か忘れましたが、これはええのかとって県に聞いたら、県は大村知事がいいと言ってる、それを展示しても、と言ったと、そうでしょう。うなずいてますから。彼担当者ですから。ということですから、やっぱり慰安婦像をああいいう格好で飾るということは、ええと思ってるんでしょう。もう1つだけ言わせてもらおうと、名古屋とロサンゼルスっていうのは、Sister city affiliationということで60年来仲良しなんです、われら。ロサンゼルスは、伊勢湾台風の時も応援してもらってありがたいんだけど、1カ月ぐらい前に行ってきたときに、日本人の女性がいたんです、ガイドしとる。彼女が怒ったんですけど、どう言ったかいうと、ロサンゼルスで、Comfort lady statueをつくるときに私たち反対運動をやったんだと、署名運動をやった。これはLiarだと、うそだと言ってやったんだと。何をしてくれるんですか、名古屋はと、日本はと。

D2

12月10日 日本外国特派員協会での記者会見録（その⑦）

私たちこうやって異郷に、アメリカに来て頑張るとるのにねと。名古屋が主催して、主催ですよ、主催、これ。とって、えらい怒られました。

いや、それはちょっと、やっぱりうそまで言って、展示品を、で、マスコミがそれをそちら側の応援してですよ、これ。表現の自由だといって。それは公正な議論のスタートになりうるんですか、それ。やっぱり正直に展示のときに言って、これを、そうするとみんな、いかん言いますわ、それは、これちょっと待って。そのところでやっぱり堂々と議論をすべきだったと思いますよ。Honesty firstですよ。I insist honesty first, right?

産経新聞記事(12月13日) (その①)

不自由展は公共事業の問題 河村名古屋市長

不自由展「公共事業の問題」

8月、ある国際芸術祭が「炎上」した。愛知県や名古屋市などが主催した「あいちトリエンナーレ2019」。その中の企画展「表現の不自由展・その後」で昭和天皇の肖像を燃やして踏みつける動画、慰安婦像、旧日本兵を揶揄(やゆ)する作品が展示された。批判が殺到し3日間で中止したが、後に再開した。あのとき何が起きていたのか。トリエンナーレ実行委員会会長代行の河村たかし名古屋市長を訪ねた。(酒井充)

河村たかし名古屋市長

「展示内容を知ったのは7月31日の前夜祭。隣にいた市議が『慰安婦像が展示される』ようなことを言ったもんで、『そんなバカな』と驚いたわけです。公共事業ですから。次の日、日本維新の会代表の松井一郎さん(大阪市長)から電話が来て『慰安婦像が出品されとると聞いたで』と言うもんで。頭から抜けていた。『そんなもん、あり得ん』と思うとるから」《河村氏は冒頭からエンジン全開だ》

出展一覧が違った

「次の日(8月2日)、見に行っただけです。そしたら昭和天皇の動画があり慰安婦像。それとドーム状の『間抜けな日本人の墓』(＝時代の肖像－絶滅危惧種 idiot JAPONICA 円墳)。太平洋戦争で死んだ日本人の寄せ書きですわ」

「自分のカネでどこかでやっていれば、あーだ、こーだと言わない。

でも公共事業だ。名古屋市、愛知県主催というのがでかい。陛下に敬意を持つ人がほとんどです、日本人は。公金を置く場合、一定の審査義務みたいなものがある。そうでなければ無政府になってしまう。公共事業は納税者の税金が使われる。誰かが審査しないといかんでしょ」

《しかし、名古屋市は主催者。なぜ事前に展示内容を把握しなかったのか》

「任せていたわけです。県がほとんどやってますのでね。こんなこと起こると思わんもんだね」

「7月22日に県から作者と題名、内容と写真が提示され、慰安婦像と『間抜けな』は写真で載っていた。市当局は『まずいのではないか』と言ったが、24日に県は『大村秀章知事がいい』と言っていると。こっちも誤った。(市が)オレに言わなかったんですよ、そのことを」

「でも出展一覧が違っと思った。だまされたわけだ。陛下の(作品)はリストに『PartI』とあり、写真があった。ところが展示されたのは動画の『PartII』だったんよ」

大村氏が権力を行使

《河村氏は8月2日、実行委員会会長の大村氏に即時、展示の中止を含めた適切な対応を求める」との内容だ抗議文を出した。》

B1

D2

C

D1

F

産経新聞記事(12月13日) (その②)

E

「大村氏に実行委員会を開いてくれと何回も言ったけど、独断でやった。公共事業は大方の市民が納得してくれなアカン。芸術への助成は名古屋市もやってますよ。役人が審査し予算を議決して。だけど陛下の動画に助成するわけにはいかんでしょ。常識ですよ」

「大村氏は『憲法違反だ』『公権力が口を出すことは検閲だ』と。でも、これは公共事業の運営の問題で、表現の自由の問題じゃない。権力行使したのは大村氏。会長が会長代行に相談せにや、いかんですよ」

《企画展は10月8日に再開し、河村氏は会場前で座り込んで抗議した。芸術祭は同14日に終わったが、2億円を負担する市は未払い金3300万円を抱える》

「だまされたものにカネを払うのは簡単じゃない。監査請求が起きて負けるよ。かといって独断もまずいで、名古屋市として検証委員会を作ったんです」

《検証委は19日に初会合を開く。河村氏が最後に付け加えた》

「おかしいよ、日本は。危ない国だと思いますよ、本当に...」

平成から令和へと元号が変わった2019年が幕を閉じる。時代の節目となった今年、話題となった政治の現場や当事者を訪ねた。

あいちトリエンナーレ実行委員会運営会議 議事録

1 日時

平成 31 年 3 月 27 日 (水) 午後 1 時 30 分から午後 2 時 10 分まで

2 場所

愛知芸術文化センター 12 階アートスペース A

3 出席委員

愛知県知事 (会長) 始め 17 名

4 議 事

議案 1 平成 31 年度事業計画及び収支予算について

議案 2 あいちトリエンナーレ実行委員会規約の一部改正について

議案 1、2 について、意見等はなく、原案通り了承された。

5 報告事項

(1) 「あいちトリエンナーレ 2019」の進捗状況について

(2) 有識者部会の結果について

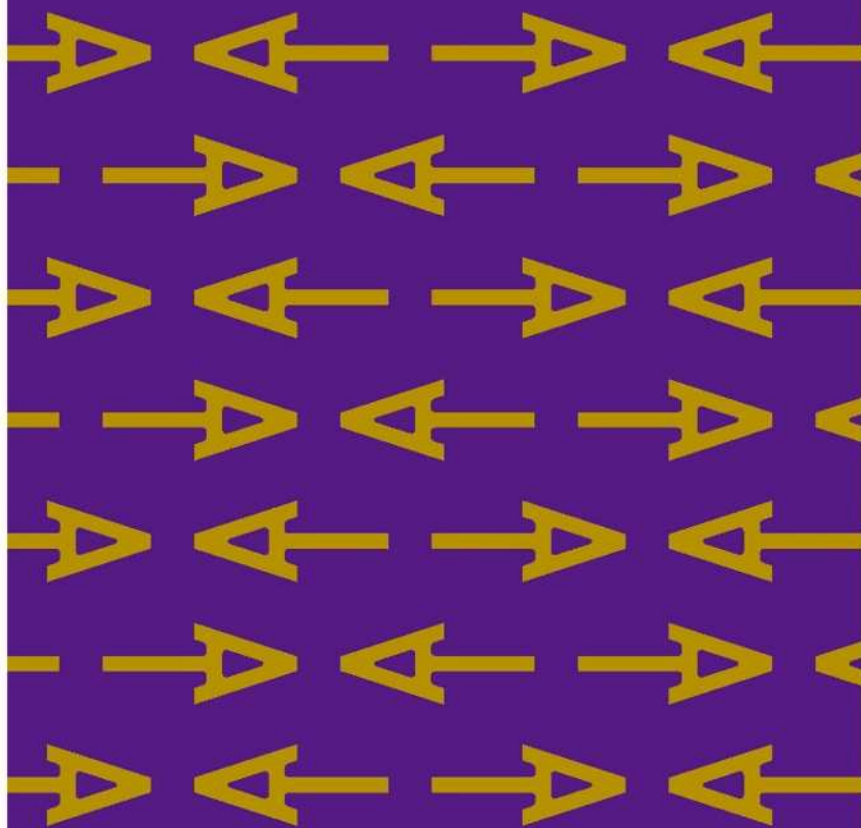
報告事項(1)、(2)について、質疑等なし。

あいちトリエンナーレ2019
AICHI TRIENNALE 2019: Taming Y Our Passion

情の時代

プレスリリース

2019年3月27日



参考 2

開催概要

名称

あいちトリエンナーレ2019 / Aichi Triennale 2019

テーマ

情の時代 Taming Y/Our Passion

芸術監督

津田 大介 (ジャーナリスト/メディア・アクティビスト)

1979年生まれ、東京都出身。早稲田大学大学院情報学、メディアとローア / スム、著作権・コンテンツビジネス、意識の自由化をテーマに執筆・講演を行う。宇都宮県立美術館の副館長や社説ライターが社会をどうにか変えるかをテーマに執筆を続ける。



会期

2019年8月1日(木)～10月14日(月・祝) [75日間]

主な会場

愛知芸術文化センター

名古屋美術館

名古屋市内のまちなか (小牧市、東山町)

豊田市 (豊田市美術館及び豊田市駅周辺)

主催

あいちトリエンナーレ実行委員会

目次

開催目的	P2	参加アーティスト一覧	P40
開催概要	P3	連携事業	P42
企画概要	P4	チケット情報	P44
テーマ・コンセプト	P6	スケジュール	P45
企画体制	P8	主な会場/交通機関のご案内	P46
参加アーティスト紹介	P10		

国際現代美術展

International Contemporary Art Exhibition

表現の不自由展・その後

After "Freedom of Expression?"

NEW

「表現の不自由展」は、日本における「言論と表現の自由」が脅かされているのではないかと強い危機意識から、権力的権限や権力によって表現の機会を奪われてしまった作家を擁護、2015年に開催された展覧会、「表現の自由、言論と良心、表現の自由、言論と良心、表現の自由」など、近頃の公共文化施設で「表現の自由」とされるが、その一方で「表現の自由」が脅かされているのか、実際に奪われた自由なども同時に展示した。今回は、「表現の不自由展」で扱った作品の「その後」に迫る。2016年以降、新たに成立した展覧会などで展示不能になった作品を、同様に不許可になった理由とともに展示する。



2015「表現の不自由展」千代田区立美術館、東京

展覧会「表現の不自由展」
2015年 千代田区立美術館

洪松明 (ソンミン・アン) & ジェイソン・メイリング Song-Ming ANG and Jason MALING

2017年シンガポールにて二作家によるライブパフォーマンス展覧会

NEW

洪松明は音楽、パフォーマンス、と音楽をめぐる芸術作品の制作を行うアーティスト。ジェイソン・メイリングは社会のなかの様々な出会いに気づいて居住するプロセスを表現するパフォーマンスを行っている。2017年から二人は共通するライブパフォーマンスへの関心を満たし、「アマチュアであること」の文化的な重要性を掘り下げる方法についてコラボレーションを開始し、"A Song to Change the World"というタイトルで制作されたライブパフォーマンスは、不可能な課題を克服するパフォーマンスであり、その生成プロセスにおいて、「何を言えるか」とはどのようなものか?という問いを繰り返しながら、互いに問いを投げかけ、観客の反応が好む、懸念であること、疑問、真摯な態度のいずれをも前向きに受け入れながら、彼らは一連のワークショップ、レクチャー、パフォーマンスに人々を招き、参加者の生活を助けるため、ともに活動を行っている。



洪松明 (ソンミン・アン)
1990年シンガポール生まれ、ペルリン(ドイツ)/シンガポール在住。
ジェイソン・メイリング
2004年オーストラリア(ニュー・ジークランド)生まれ、メルボルン(オーストラリア)在住。

2016 Festival of Live Art, Melbourne (オーストラリア)
2018 [Exposition of Live Art] Exhibition is in TRUJUAN Gallery, 南洋理工大学, シンガポール

A Song to Change The World 2018
Festival of Live Art Exhibition is in TRUJUAN Gallery
Pract. Beyond. Jakarta

名古屋市への提供資料（7月22日）

別添1

参考3

「あいちトリエンナーレ 2019」展示予定作品一覧 (7月12日現在)

番号	作家名	作品名	形態	内容	2015年 展 示	今回追加 展 示
1	安世鴻	重重—中国に残された朝鮮人日本軍「慰安婦」の女性たち	写真	慰安婦 (+資料展示)	◎	
2	関連資料	会場及び在特会などの動きを取めた映像	映像	慰安婦		○
3	キム・ソギョン キム・ウンソン	平和の少女像 (ミニチュア)	立体	慰安婦 (+資料展示)	◎	
4	キム・ソギョン キム・ウンソン	平和の少女像	立体	慰安婦 (+資料展示)	◎	
5	趙延修	償わなければならないこと	絵画	慰安婦 (+資料展示)		○
6	横尾忠則	暗黒舞踏派ガメラ商会	版画	日章旗類似デザイン		○
7	横尾忠則	ラッピング電車の第五号案「ターザンの雌叫び」	写真	ターザンのデザイン		○
8	大橋藍	アルバイト先の香港式中華料理屋の社長から「オレ、中国のもの食わないから。」と言われて頂いた、厨房で働く香港出身の K さんからのお土産のお菓子	インスタレーション	施設利用への抵触		○
9	白川昌生	群馬県朝鮮人強制連行追悼碑	立体	強制連行		○
10	大浦信行	遠近を抱えて	コラージュ	天皇制 (+資料展示)	◎	
11	藤江民	Tami Fujie 1986 work	版画	上記作品の展示中止への抗議 (+資料展示)		○
12	嶋田美子	焼かれるべき絵	版画	展示中止への抗議		○
13	嶋田美子	焼かれた絵	写真、書簡、灰	展示中止への抗議		○
14	中垣克久	時代の肖像	立体	憲法9条、靖国問題、政権批判 (+資料展示)	◎	
15	岡本光博	落米のおそれあり	パフォーマンス	沖縄米軍		○
16	—	9条俳句	俳句	憲法9条 (+資料展示)	◎	
17	永嶋幸司	福島サウンドスケープ	サウンド	原発	◎	
18	Chim ↑ Pom	気合い100 連発	映像	原発 (+資料展示)		○
19	小泉明朗	空気 #1	油彩	天皇制		○
20	—	マネキンブラッシュアップ	映像	(+資料展示)		○
計					7	13

2015年「表現の不自由展」で展示された作品（7作品）

※2015年の「表現の不自由展」で展示された9作品のうち7作品を今回出展

	作家名	作品名	形態	内容	図版資料
1	安世鴻	重重—中国に残された朝鮮人日本軍「慰安婦」の女性たち	写真	慰安婦 (+資料展示)	
3	キム・ソギョン キム・ウンソン	平和の少女像 (ミニチュア)	立体	慰安婦 (+資料展示)	
4		平和の少女像	立体	慰安婦 (+資料展示)	
10	大浦信行	遠近を抱えて	コラージュ	天皇制 (+資料展示)	
14	中垣克久	時代の肖像	立体	憲法9条、靖国問題、政権批判 (+資料展示)	
16	—	9条俳句	俳句	憲法9条 (+資料展示)	「梅雨空に『9条守れ』の女性デモ」 (映像、音声)
17	永嶋幸司	福島サウンドスケープ	サウンド	原発	

「あいちトリエンナーレ 2019」で展示される追加作品 (13 作品)

番号	作家名	作品名	形態	内容	図版資料
2	1 安世鴻の 関連資料	会場及び在特会などの動きを取めた映像	映像	慰安婦	(映像)
5	趙延修	償わなければならないこと	絵画	慰安婦 (+資料展示)	
6	横尾忠則	暗黒舞踏派ガレマラ商会	版画	日章旗 類似デザイン	
7		ラッピング電車の第五号案『ターザンの雄叫び』	写真	デザインの列車事故遺族への影響	
8	大橋藍	アルバイト先の香港式中華料理屋の社長から「オレ、中国のもの食わないから。」と言われて頂いた、厨房で働く香港出身のKさんからのお土産のお菓子	インスタレーション	施設利用者への抵触	
9	白川昌生	群馬県朝鮮人強制連行追悼碑	立体	強制連行	

番号	作家名	作品名	形態	内容	図版資料
11	藤江民	Tami Fujie 1986 work	版画	大浦信行作品の展示中止への抗議 (+資料展示)	(作品データなし)
12	嶋田美子	焼かれるべき絵	版画	大浦信行作品の展示中止への抗議	
13		焼かれた絵	写真、書簡、灰	大浦信行作品の展示中止への抗議	
15	岡本光博	落来のおそれあり	ポスター	沖縄米軍	
19	Chim ↑ Pom	気合い100連発	映像	原発 (+資料展示)	(映像)
19	小泉明朗	空気 #1	油彩	天皇制	
20	-	マネキンブラッシュモブ	映像	公の場でのパフォーマンス	(映像)

「あいちトリエンナーレ 2019」展示予定作品一覧 (7月16日現在)

番号	作家名	作品名	形態	内容	2015年 展 示	今回追加 展 示	規制を求める側	規制の理由	結果
1	安世鴻	重重一中国に残された朝鮮人日本軍「慰安婦」の女性たち	写真	慰安婦 (+資料展示)	◎		新宿ニコンサロン	政治的。 (ニコンへの抗議運動による自主規制。)	ニコンの中止通告も、作家の仮処分申請で写真展は実現。作家が提訴し勝訴。
2	関連資料	会場及び在特会などの動きを取めた映像	映像	慰安婦		○	—	—	—
3	キム・ソギョン キム・ウンソン	平和の少女像 (ミニチュア)	立体	慰安婦 (+資料展示)	◎		東京都美術館	政治的表現であり同美術館運営規定に抵触。	展示されたが撤去。
4	キム・ソギョン キム・ウンソン	平和の少女像	立体	慰安婦 (+資料展示)	◎		—	—	—
5	趙延修	償わなければならないこと	絵画	慰安婦 (+資料展示)		○	千葉市 (市長)	地域交流の展示で政府批判を展開するのは相応しくない。	補助金の交付を取りやめ。
6	横尾忠則	暗黒舞踏派ガメラ商会	版画	旭日旗類似デザイン		○	在米韓国系市民団体	旭日旗と類似したデザインが軍国主義的なものだと、会期終盤に MoMA へ抗議。	MoMA での「TOKYO1965-1970」展は、会期末まで継続。
7	横尾忠則	ラッピング電車の第五号案「ターザンの鐘叫び」	写真	ターザンのデザイン		○	JR 西日本	叫ぶ姿が脱線事故の被害者に重なるという声が出かねないとの憂慮。	採用されず。
8	大橋藍	アルバイト先の香港式中華料理屋の社長から「オレ、中国のもの食わないから。」と言われて頂いた、厨房で働く香港出身の K さんからのお土産のお菓子	イラストレーション	施設利用ルールへの抵触		○	国立新美術館	箱の中のお菓子が腐敗の怖れあり。	出品禁止。
9	白川昌生	群馬県朝鮮人強制連行追悼碑	立体	強制連行		○	群馬県立近代美術館	群馬県と設置者が撤去係争中の追悼碑をモチーフにした作品であり、係争中の事件に関わるため。	展示取消。
10	大浦信行	遠近を抱えて	コラージュ	天皇制 (+資料展示)	◎		富山県議会、右翼団体	天皇に対する不敬。	展覧会終了後の批判により、富山県美術館は図録の在庫焼却、作品を非公開、その後売却。作家が提訴するも、敗訴。
11	藤江民	Tami Fujie 1986 work	版画	上記作品の展示中止への抗議 (+資料展示)		○	—	—	—
12	嶋田美子	焼かれるべき絵	版画	展示中止への抗議		○	—	—	—
13	嶋田美子	焼かれた絵	写真、書籍、灰	展示中止への抗議		○	—	—	—
14	中垣克久	時代の肖像	立体	憲法 9 条、靖国問題、政権批判 (+資料展示)	◎		東京都美術館	作品表面を覆うメッセージの中に政治・宗教活動にあたるものがある。	一部のメッセージを削除。
15	岡本光博	落米のおそれあり	パフォーマンス	沖縄米軍		○	沖縄県うるま市 (自治会長)	地域美術展 (アートによる観光振興) に相応しくない。	市の判断で封印 (ベニア板で覆う)。その後抗議により、最終日に一日だけ場所を移して再公開。
16	—	9 条俳句	俳句	憲法 9 条 (+資料展示)	◎		埼玉県さいたま市大宮区の三橋公民館	政治的。議論が分かれる案件の一方の側に立てない。	公民館の月報への掲載拒否。作家が提訴し勝訴。
17	永幡幸司	福島サウンドスケープ	サウンド	原発	◎		日本サウンドスケープ協会 20 周年記念展	特定の者に対する批判と受け取られる可能性のある表現が、公立博物館としてふさわしくない。	作品解説のうち、福島大学の学長と執行部の除染対応への批判が削除、書き換えられて展示。
18	Chim ↑ Pom	気合い 100 連発	映像	原発 (+資料展示)		○	ビエンナーレに参加の際、主催者の国際交流基金から意見	いくつかの禁止ワードに触れる作品。	オリジナルバージョンと、禁止ワードを隠したバージョンを並べる形で自主企画展にて発表。
19	小泉明朗	空気 #1	油彩	天皇制		○	東京都現代美術館 (「キセイノセイキ」展チーフキュレーター)	多くの人が持つ宗教的な畏敬の念を侮辱する可能性がある。	作家は、美術館との交渉の末、出品は断念。直後に別のプロジェクトにて展示された。
20	—	マネキンフラッシュモブ	映像	(+資料展示)		○	神奈川県海老名市	路上でのパフォーマンスが、条例違反。	禁止命令を出し、警告。モブ側が提訴し勝訴。禁止命令取消。
計					7	13			

8月2日 河村市長からの抗議文

参考4



令和元年 8 月 2 日

あいちトリエンナーレ実行委員会会長
大村 秀章 様

名古屋市長 河村 たかし

あいちトリエンナーレ 2019「表現の不自由展・その後」
について

本事業は、本市の負担金 2 億円余を含む 10 億円を超える多額の税金が使われている展示会である。その一企画である「表現の不自由展・その後」は、表現の不自由という領域ではなく、日本国民の心を踏みにじる行為であり許されない。行政の立場を超えた展示が行われていることに嚴重に抗議するとともに、即時、天皇陛下や慰安婦問題などに関する展示の中止を含めた適切な対応を求める。

当委員会によるヒアリング録

10月9日

(河村市長)

- 時間をいただいて感謝。
 - 冒頭から感じ悪いかもしれないが、先生2人には何の恨み辛みもありません。初めてお目にかかりましたので。ただ、これ、あまりに暴力的だからいかん。表現の自由とか言われる人たちが暴力的手法をとられるとやっとなんかです。
 - 名古屋市民(県民、国民含めて)守るという職務があるので。トリエンナーレ実行委員会がやっているが、こんなことが起こるとは想像もしていなかった。
 - 零細企業の息子として、経営者として、自由主義者として、自分ほど表現の自由に寛大な人間はいないと思っている。民主党にいたるときは党内NPOである国会Gメンの座長をやって、国税庁と戦っていたくらいで、反権力のシンボルみたいなもんです、私は。
 - 突然皆さんの団体が生まれまして、誰がどう頼んだのか、私には一切相談ありませんから。一体なんなんだこれは、と。冒頭から感じ悪いけど。
 - 30人にヒアリングしたというが、それはそれで大変だったと思いますが、私が31人目とは。私はそういう立場ではないですから、言っときますけど。
 - この問題点は3つある。1つは、公共の場所でやったこと。
 - もう1つ一番でかいのは、名古屋市主催、愛知県主催ということ。
- トリエンナーレ実行委員会の名前になっていますが。国も補助金を出すことになっていた公共事業です。
- 憲法15条第2項で全体の奉仕者となっていますので、一定の申告をうけて、必要最低限、全体の奉仕者になるように考えるのが務めである。
 - 何の音沙汰もなく突然に検証委員会をつくって、はっきり言って承知できません。(今日のヒアリングも)やめようと思いましたが。昨日再開して、そもそも誰が何の権限で再開しているのか。何の相談もなしに。
 - 名古屋市の補助金は、1/3かもしれないが、名古屋市民は同時に愛知県民。実質1/2弱くらいは名古屋市民が負担している。
 - 陛下をバーナーで暴力的に燃やす映像は、冒頭、最後の2回ある。これが主催である名古屋市民がやったことになる。少なくとも認めたことになってしまう。
 - 名古屋市にもよく後援依頼があるが、それだけのクレジット、ガバメンタルスピーチがある、信用力があるから依頼があるということ。ましてや、主催となると、大本営発表です。それだけ市民に対して影響を与えるわけです。
 - これを市民に何の相談もなしにやって、こういうのを暴力というじゃないでしょうか。
 - 私は市長として名古屋市民に責任がとれない。恥ずかしい。市民の皆さんに本当に申し訳なかったと思っている。世界に大恥をさらした。

- 市直営でやったということは、陛下の写真をバーナーで燃やして踏みつけるということを、市民が認めた、サポートしたということになる。それが市直営でやったこと責任になる。
- 冒頭から感じ悪いけど、この暴力的な手法は信じられない。
- 暴力の対概念が表現の自由だと思うが、冒頭申し上げたとおり暴力的。名古屋市長にも相談してもらわないと。早い時点で、公共事業であるから、相談してしかるべき。
- 一般の画廊でやったことには何も言わない。私は未だかつて作家の人にやめろと言ったことは一度もない。
- 暴力的な人たちが表現の自由を言っているから、日本の国は恐ろしいと思う。マスコミも本当のことを言ってくれない。
- 慰安婦のことばかりいっているが、天皇陛下の写真を燃やしたり、これはハラスメントだ。表現の自由以前の問題である。
- 天皇陛下ではなくても、自分のおじいちゃんの写真を燃やしたり足で踏まれたら、やめてくれとなる。これのどこが芸術性で表現の自由か言って欲しい。市民に対する責任を踏み潰されたという認識をもっている、私はものすごく怒っている。
- 今回は公共事業なので、画廊でやったのと違う。
- 申請について、嘘でなかったのか。本当のことを言わずに突然やったんじゃないか。表現の自由という名を借りて、突然、暴力的に世論をハイジャックしたのではないか。恐ろしい話だ。危ないと思っている。

- どうしも市長として言わしてもらいたかった。職務としてやっているの。

(意見陳述要旨の読み上げ)

(山梨座長)

- 趣旨としては、中間報告についてのご意見あればと思ってきたが、意見陳述要旨を聞かせていただいて、沿った内容が出てきたと思う。あらためて、私から聞いてしまうと重複してしまう。
- ここに盛られた意見については、検討委員会の仕事の継続として、中間報告を完成形に持っていくにあたって活かしていきたい。
- 意見陳述要旨については、検討委員会として、意見を中間報告の完成に向けて活かしていきたい。今回の要旨については、最終的な報告書に添付資料として加えてよいか。

(河村市長)

- 可能。しかし、そもそもなぜヒアリングを受けなければいけないのか。検証委員会はどういう権限があるのか。

(山梨座長)

- ヒアリングを受けなくてはいけないという定めはない。関係者にヒアリングをしてきて、8月29日に河村市長にもヒアリングをさせていただきたいと文書で依頼をした。それに対して「ヒアリングは受けません」という回答であれば、それはそれで結構でした。

(河村市長)

- 会長代行として聞きたい。皆さんにはどういう権限があるのか。どうして選ばれたのか。誰が選んだのか。誰から電話がかかってきたのか。

(山梨座長)

- 検証委員会、検討委員会について、どういう理由で誰が選んだかということは、今日のヒアリングの趣旨から外れている。

(河村市長)

- そういうことになると、ちょっとこれはいかなんではないか。いくらなんでも暴力的。そんなもんは。私悪いけど責任者ですから。

(山梨座長)

- 市長が言う暴力的と言う点については、きちんと本日も意見陳述要旨として伺っている。それに対する問題点については、今日、我々がお答えする立場にない。

(河村市長)

- 立場にないことはない。立場だ。時間がないということならそれでいいけど。私にとっては大きいこと。河村、責任放棄しとるのか、と言われるので。

(北口弁護士)

- 立場にないというのはもっとも。

(山梨座長)

- 河村市長の中間報告に対する御意見、御異議があるのであれば、反映する。

(河村市長)

- 検証委員会の存立について大変疑問に思っているということは、きちんと書いてほしい。全ての前提です。第三者性に非常に疑問がある。

- なぜ津田さんが選ばれたのか。その後、大村知事がどこまで知っていてどう関与したのか。それから、「隠してやろう」と言っているので、本当のことを言わずに我々をだましたのではないか。こういったことについてしっかり分析しないと。だまされたという疑惑があると、お金を払えない。ここについて皆さんは避けているように見える。

(北口弁護士)

- 座長の質問の趣旨とかみ合っていないように感じるので、補足させてください。意見書について、誤植がある点、市長が強調したい点については補強してよいか。

(山梨座長)

- かまわない。
- 8月開会当初から、あいちトリエンナーレ実行委員会を中心に非常に総計1万通を超える電話、メール、ファックスの抗議が寄せられた。名古屋市に対しては、具体的にどうだったか。今すぐでなくても、数字があれば教えてほしい。

(河村市長)

- 9月末までに約1,700件の意見が寄せられた。市長ホットラインへ「ガソリン携行缶を持って貴様のところに明日行く。」との投稿があり被害届を提出した。僕個人に対して。私は被害者。堂々たる

被害者である。

(岩淵委員)

- 意見陳述書について修正提出するとのことだが、北口弁護士として、「公共空間」を使った日本国民全体へのハラスメントとはどういうことか、説明を加えてほしい。

(河村市長)

- 「公共空間」というのは一般的に場所だけ。それと、「主催」なので裏書効果があるということ。名古屋市主催だということが問題。

(岩淵委員)

- 公共空間と、展示内容の中身が何か関係あるのか。

(北口弁護士)

- 公共空間というキーワードは、第1回あり方検証委員会会議で岩淵先生が発言されていた言葉を引用したつもりである。自分がフランスやドイツの国立美術館に行った際、美術館は、家族で楽しんだり、小中学校の先生が生徒を引率していたり、教育している場でもある。そういった公共的な場で、あのような暴力的な作品が適切なのかどうかという趣旨で書いたもの。

(河村市長)

- 岩渕先生の主催というのは、中身とどういう関係があるのか。という話で、主催するというのは、裏書効果がある。それが正しいと認めるといことになる。これに対し、違うと思った人が発表する機会がなくなる、力が小さくなると思う。ミッドウェー開戦における大本営発表がいい例。主催というものの重さが分かっていない。

(岩渕委員)

- よく分からないが。
- 公共空間という言葉についてだけ。美術館とは、特定の目的を持った公共空間。美術品、芸術作品を展示する特定の目的をもった空間である。
- 海外の事例について一つだけ紹介したい。パリのポンピドゥーセンターという美術館に、非常に鋭い強化プラスチックでできた作品があって、そこには「触れてはいけない」と書かれていたが、親と一緒に来ていた子供が触れて指を落としてしまった。しかし、美術館は一切責任を問われなかった。それくらい、美術館とは、特定の目的を持った公共空間であるという認識がある。

(河村市長)

- 主催という言葉の感じ方、公共空間と言うものに対して認識が著しく違うと感じる。
- 名古屋市主催であるかどうか、というのは、とても大きいこと。これは、裏書効果があって、市民が応援しているということになる。なので、こういう展示をします、「天皇陛下の肖像を燃やします、足でふんづけます」と言うべき。

- 市民に何も言わずにやるのは違う。公共がやる場合は、あらかじめ言わないと。そうでなければ、民間でやればいいし、名古屋市は主催から降りる。それほどまでに公共の裏書効果は大きい。だから皆怒っている。

(山梨座長)

- 市長のご意見、また、どういうお立場から話されているかはよく分かる。ただ、そのこと自体を我々が今ここで議論する場ではない。ここにあるご意見は反映していく。
- あいちトリエンナーレ実行委員会運営会議について、市長は会長代行を務めているが、代理出席が多い。このこと自体はよいが、会議結果の報告はどのように受けているか。

(河村市長)

- 今回はたまたま出てないが、過去3回のうちには出たことがある。芸術監督が選ばれたとき。誰のときだったかは忘れた。
- 結果の報告については、自分の印象では、ほとんどなかった。それは信じているから。県が実際ほとんどやっていて。代理出席の人間からも報告はなかったと思う。それは信じとったから。そもそも自分は干渉しようなんてさらさら思っていないから、こんな超例外的なことがない限り。

(山梨座長)

- トリエンナーレ事務局に名古屋市職員も出向しているが、事業内容や進捗について報告はあったか。

(河村市長)

- 事務局に職員が1人出向している。その職員は円頓寺エリアのマネジメント担当である。不自由展の内容については、全く知る立場になかった。
- 直接聞いたのは、7月22日に県から出品リストをもらって、今回の不自由展の展示作品を知ったそうだ。そのときに「大丈夫ですか」と県職員に聞いたところ、知事が大丈夫といったので、と県職員は言ったそうだ。その時のこと(7月22日の県から市への報告)に関しても、自分に報告はなかった。
- 私が初めて知ったのは、7月31日のレセプション。津田さんが大演説し、文化庁が来るとか来ないとか、どういうことかと思っていたら、隣の議員(市議会議長)から「実は慰安婦像が出ている」と聞いて、「えーっ?」「そんな馬鹿な!」となった。

(北口弁護士)

- 3月27日に、広澤副市長が代理出席したあいちトリエンナーレ実行委員会運営会議があった。この会議の際の、平成31年度事業計画の中で、何をやるのかが初めて出された。その中で、現代美術展というのが書いてあったが、その中では、不自由展の内容については一切触れられていない。

(河村市長)

- プレスリリース用にパンフレットが同時に配られた。この資料の中には、不自由展のワンコーナーがあって、天皇と戦争、「慰安婦」問題、それだけ書いてある。正式な議事録には一切なかった。その時点でこんなようなことになろうとは、一切思わなかった。

(山梨座長)

- 名古屋市職員の派遣状況について確認したい。

(文化振興室 上田)

- 円頓寺エリアについては、名古屋市の派遣職員が1名と県のトリエンナーレ推進室職員が担当している。名古屋市美術館については、名古屋市美術館の職員が担当している。

(岩淵委員)

- 運営会議の確認。あいちトリエンナーレの過去4回、2013~2019まで、全18回あったが、市長の出席は2回だけ。今回2019の運営会議には一度も出席せず、全4回のうち3回副市長が代理で出席した。名古屋市民への責務を果たされたいがために展示の内容について強く抗議するとのことであるが、会議に一度も出ていない状況で、公人として、トリエンナーレに関して名古屋市民に対する責務を果たされたと考えているか。

(河村市長)

- そりゃ、じゅうぶんじゃないでしょうか。
- 自由にやってちょうだいと。おもしろくしてちょうだいと。
- 過去2回出たときも、そこで芸術監督が選ばれて、面白いことやってちょうだいというようなことを言ったと思いますよ。

- もともと内容にあれしろこれしろなんて言うつもりはさらさらありませんから。おもしろくしてちょうというのは、大丈夫でしょ、検閲じゃないでしょ。
- こんな異常な事態が発生した時には、こういう時こそ言いにくいことも言わなきゃいけない。その方がよっぽど重要。
- こんな異常な事態に何も言わないでほかってくなんてひどい話だ。

(山梨座長)

- 名古屋市は、電凸対策としてどのようなことをしていたか。

(河村市長)

- たぶん、なんにもやっていないと思う。

(文化振興室 上田)

- 「市民の声」という市の制度がある。こちらの方に、さまざまな電話、メールがあった。電話については、代表電話から「市民の窓口」に転送されたり、我々の文化振興室に直接電話があったりした。電話があったときには真摯に対応していたが、場合によっては、30分、1時間、2時間以上の電話もあったが、忍耐強く職員の方で対応していた。特段、電凸対策はとっていなかった。

(山梨座長)

- 今日はそちらからの話、意見を聞いて、報告書等に反映させて

いくということ最大の趣旨である。

- 今日のご意見のほか、ご意見あれば書面でいただきたい。

(北口弁護士)

- 岩淵委員から、あいちトリエンナーレ運営委員会運営会議に、副市長が3回代理出席している。それについて、市長としての責任を果たしているかという質問があった。それについては、市長の代行者としての務めは果たしているということであるが、前提があって、津田監督が大村知事に対して「平和の少女像」について「大丈夫だろうか」という相談をしたことがあったが、それに対して大村知事は「展示の仕方を変えてくれないか」と指示したとこのことが中間報告にも書かれている。このような問いかけが市長の方にもあったら、当然、意見を述べて責任を果たしたと思う。そういった前提がなかったということは配慮してもらいたい。

(山梨座長)

- 今話されたことも書面等でいただければ反映する。

(北口弁護士)

- 中間報告には「平和の少女像」のことしか書かれていないが、大村知事は、天皇陛下の作品については、いつどのように知ったのか、報告書に書いていないのでは。「平和の少女像」のことだけ知っていたとは考えられない。

(山梨座長)

- 今のことも含め、出してほしい。

(北口弁護士)

- 今日の意見陳述要旨から「主催者」という点をもう少し強調してほしいというのが市長の意向であるので、修正したい。
- 「公共空間」について、岩淵委員から質問いただいたので、補完して提出する。
- そのほか、ご意見は書面で追加提出する。

(岩淵委員)

- 昨日、閉鎖されていた部分の展示が再開されたことで、ボイコットしていたアーティストたちが戻ってきてくれた。オープンした当初と同じ状況で再開することができた。海外からの参加アーティストたちは非常に高く評価している。その点について、市長はどうお考えか。

(河村市長)

- 外国人記者クラブにも行ってしゃべらないといかん。あれは名古屋市と愛知県が「主催」しているのだと。彼等は知らないと思う。
- その展覧会を誰が主催したのかと、要するに裏書効果を、公的な市や県が、例えばニューヨーク市が、与える展覧会だったと

いうことです。

(岩淵委員)

- アメリカではそういうことはない。

(河村市長)

- そりゃないでしょ。
- 今回でも、もし名古屋市主催じゃなかったら、賃料だけ払ってくださいよとか、あんまし酷い内容だったらどうなるかもしれないけど、そんだけのこと。

(岩淵委員)

- お金を払って美術館を借りられるのは日本だけなので、海外とは比較できない。

(河村市長)

- 主催はどうか。

(岩淵委員)

- 主催は美術館が主催する。

(河村市長)

- ニューヨーク市主催なんてないでしょ。

(岩淵委員)

- 例えばメトロポリタン美術館の話をする、光熱費とガードマンの人件費、水道代はニューヨーク市が負担するが、どんな内容の展覧会をしても、ニューヨーク市は一切何も言わない。お金を払っても言わない。

(河村市長)

- だから主催にしないのでは。アーツカウンシルにするなど。
- 市主催とかオリンピックみたいにはしない。これはオリンピック会場に出したのと同じ。その分析がないから全然噛み合わん、結局。
- 今回のことは名古屋市民がやったことになってしまう。名古屋市主催だから。そこが分かっていないからため。

(北口弁護士)

- 外国人の芸術家から再会したときに高い評価を受けたとのことだが、天皇陛下の肖像画を燃やすと言うことは、例えば、イスラム教の国ではマホメッドの画像を燃やすと同じような意味があるということは知っているのか。

(岩淵委員)

- 世界で活躍しているアーティストなので、シャルリ・エブドの件を始め知っていると思う。
- もし彼らが質問するとすれば、天皇陛下は宗教上の象徴なのかと聞いてくると思う。憲法上、天皇陛下は宗教の象徴ではない。

(河村市長)

- アメリカで大統領の肖像画を燃やったり足で踏みつけたりしたら、アメリカ人は許さないと思う。

(岩淵委員)

- アメリカの憲法では保障されている。

(河村市長)

- 憲法で保障される以前の問題でしょう。
- ニューヨーク市主催だったら、皆が集まってやめろと、自分たちの尊厳を犯すと言うと思う。
- 主催だったという重みを大きく書いてほしい。裏書効果があると。
- 多くの日本人は、天皇陛下に敬意を持って接しようとしている人がほとんどだと思う。市長として申し訳ない。